

行事予定

2023(令和5)年8月~11月

【特別展/企画展】

2023年 7月24日(月)~12月中旬

2023年度 サテライト展示II

「アジアに渡ったキリスト教美術—フイリピンと日本—」

〔場所〕原城図書館(長崎県南島原市)

2023年 8月1日(火)~10月19日(木)

2023年度 企画展予告展示

「ジョージくん&ふっきよんと『NIPPON』を観察しよう!」

〔場所〕西南学院大学博物館1階廊下

2023年 10月23日(月)~12月18日(月)

2023年度 企画展

西南学院大学博物館×福岡県立図書館共同企画展

シーボルト来日200周年記念

「シーボルトと近世の蘭学者たち」

〔場所〕西南学院大学博物館1階特別展示室

2023年11月10日(金)~2024年2月18日(日)

2023年度相互貸借特集展示I

「創られたキリスト像(イメージ)

—資料からみるキリスト像へのまなざし—

〔場所〕國學院大學博物館(東京都渋谷区)

【イベント】

2023年 9月16日(土) 14:00~16:00

せいなんワークショップ

「和綴ノートづくり」

〔場所〕西南コミュニティーセンター 2階会議室

※定員10名/事前申込制

【休館】

毎週日曜日 休館

2023年 8月10日(木)~16日(水) 夏季休暇期間

2023年10月20日(金)~21日(土) 臨時休館

行事予定は日程、内容等が変更する場合がございます。

各イベントの詳細につきましては博物館ホームページをご確認ください。

西南学院大学博物館

SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号

TEL.092-823-4785 FAX.092-823-4786/博物館事務室

URL <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

●開館時間のご案内

開館時間/10:00~18:00(入館は17:30まで)

休館日/毎週日曜日、夏季休暇[8/10~8/16]、キリスト降誕祭[12/25]、

年末・年始[12/28~1/5]、その他は臨時休館あり

入館料/無料

YouTube 西南学院大学博物館 @seinan_museum @seinan_museum

来館者掲示板

【来館者の言葉】

出来たら、クワやイチジクやイタリアイトスギ、レバノンスギが
地図でどこに植えてあるか知りたかった。もっと植物展示が
欲しかった。(2023年5月)

福岡のキリスト教学校3校の協力によって行われた意欲的な特別
展に感謝します。それぞれが「キリスト教主義」を掲げつつも、
戦争が続く中で少しずつ妥協を重ねていかざるをえなかったこと
をものがたる資料に胸がいたみました。教育の場としてのキリスト
教学校が、その建学の精神にたちづけ、教育を行える社会で
あるように願われます。(2023年6月)

福岡女学院卒業生です。福岡のプロテスタント3校の戦時下の
苦難。そして福岡女学院の昭和9年の平和な映像、超えて現代
へ伝えるべき素晴らしい展示でした。(2023年7月)



多くの方にご来館いただき、ご指摘やお褒めの言葉
をいただき、ありがとうございます。皆様からいただ
いたコメントは日々の博物館活動の励みとなっております。
10月23日(月)からは、企画展「シーボルトと
近世の蘭学者たち」が開催されます。まだまだ残暑が続くそう
ですが、お体には気を付けてお過ごしください。皆様とお会い
できるのを楽しみにしております。

学芸調査員 前田 桃花

編集後記

2018年から勤務されていた下園学芸員が8月で退職されること
になりました。楽しく仕事をさせていただき、職員一同感謝の気持ち
でいっぱいです。お会いできなくなるのは寂しいですが、新天地
でのご活躍を心よりお祈りしております!

学芸研究員 迫田 ひなの

アクセスマップ ACCESS MAP



- 福岡空港 → 西新駅下車 → 約17分
- 博多駅 → 西新駅下車 → 約12分
- 天神 → 西新駅下車 → 約8分
- ※地下鉄西新駅(3番出口)から徒歩5分
- 博多駅バスセンター → 修験館前 → 約35分
- 天神 → 修験館前 → 約20分
- ※修験館前バス停から徒歩5分
- 福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約25分
- 博多(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約20分
- 天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約15分

News

西南学院大学博物館ニュース

Volume 49 2023.9

西南学院大学

所蔵品紹介 楽譜付きミサ典書写本断片

大学博物館のお仕事⑤ 「展覧会ができるまで その1」

博物館通信 西南学院大学博物館特別展ほか

展覧会紹介 「シーボルトと近世の蘭学者たち」ほか

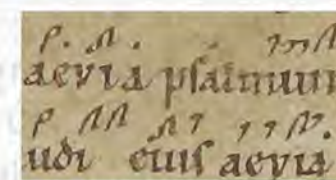


所蔵品紹介 特集

楽譜付きミサ典書写本断片

A Cutting from Noted Missal Manuscript

1150年頃/ドイツ(ラインラントか)/制作者不詳/羊皮紙に手彩/法量:縦23.5cm×横38.0cm



ネウマ譜の拡大図



本資料は、1150年頃にドイツで制作されたと考えられるミサ典書の写本断片です。ミサ典書Missalとは、カトリック教会の典礼であるミサに用いられる祈祷書のことで、典礼注記、聖歌、朗読、典礼文などが収録されています。そのなかでも楽譜のあるものを「楽譜付きミサ典書Noted Missal」と呼び、本資料には「Jubilate Deo」などの聖歌がネウマ譜と共に記されています。「Jubilate Deo」は、ミサの最初に司祭や奉仕者たちの行列に合わせて歌われる入祭唱で、特に復活節に歌われます。

聖歌の歌詞の上にかかれている記号がネウマ譜です。ネウマ譜の記号の起源は当時文章の中で使われていたアクセントや省略記号、疑問符などの記号だといわれており、歌詞の豊かな内容を表現するために多種多様な記号が使用されています。また、ネウマは聖歌の旋律を伝える指揮の動作を書き留

めたものとも言え、音の高さ以外にも強弱や長さなど、その音のもつ細かなニュアンスを表現しています。

本資料は羊皮紙に黒のインクで本文が書かれ、頭文字や一部の本文が赤色のインクで装飾されています。書体はカロリング小文字体からゴシック体への移行期の写本にみられるプロトゴシック体です。aがカロリング小文字体よりも垂直で少し角ばっている、mやnの縦線がしっかりしている、などの特徴がみられます。

中央には糸か何かで綴じられていたような跡があり、中央と両端には折皺がついています。これは、かつて本の装丁に使われていたためであると考えられ、後世に裁断され印刷本の装丁として再利用されていた写本断片(いわゆるBinding Waste)であることがわかります。

※この記事は西南学院大学国際文化学部教授の西脇純先生のご助言のもと作成されました。

学芸調査員 栗田りな



SEINAN GAKUIN

大学博物館のお仕事 Ⅴ

展覧会ができるまで その1

西南学院大学博物館では、展覧会（特別展・企画展）を年4回開催しています。これらの展覧会ができるまで、どのような流れがあるのでしょうか。

まず、展覧会の構想自体は、展覧会が開催される2年ほど前に既に決まることがほとんどです。博物館運営において、展覧会は骨組みのようなもので、決定した展覧会のスケジュールにもとづいて、関連イベント（講演会・ワークショップ）や刊行物（図録）やそのほかの展示（相互貸借展示など）のスケジュールを考えていきます。

展覧会の1年前までには、企画書を作成します。展示資料は、他施設から借用がある場合、この時点で借用の交渉を行います。展示資料がすべて決定したら、次に展示図面を作成します。展示室のどの位置にどのケースを置き、それぞれのケースにどの資料を入れるのか。個人的には、この作業が一番楽しくもあり、一番大変なところでもあります。実際にモノを置いてみるまで（展示する瞬間まで）分からないことも沢山あって、図面ではいい感じだったのに、置いてみると何か違って、直前で変更することもしばしばあります。

図面などが完成したらホッと一息つく暇もなく、造作（展示室のデザインをする作業）を依頼する会社と打ち合わせたり、図録を出版する出版社と打ち合わせたり、原稿を書いたり、ポスターやチラシをデザインしたり...など、まだまだやることが沢山あります。そのお話は次回に。

学芸研究員 鬼東 芽依



博物館通信

2023年6月から8月に行われた博物館活動の中からいくつかをご紹介します。

6月24日（土）には特別展の関連公開シンポジウム「キリスト教主義学校における戦時下資料の保存と継承」を開催し、3名のパネリストからお話をいただきました。当日は多くの方にお越しいただき、大盛況となりました。他にも期間中にさまざまな展示やイベントを開催し、好評をいただいております。

今後もスタッフ一同皆様のご来館を心よりお待ちしております。

学芸調査員 前田 桃花

2023年5月29日（月）～7月29日（土）
2023年度特別展「戦争と学院—戦時下を生き抜いた福岡のキリスト教主義学校—」を開催しました。

2023年7月26日（水）～2024年3月29日（金）
南島原市相互貸借特集展示
「原城跡世界遺産登録5周年記念展示」を開催中です。

2023年5月29日（月）～10月19日（木）
博物館ニュース特集展示
「阿蘭陀国使節長崎入船黒田鍋島陣営図」を開催中です。

2023年8月1日（火）～9月9日（土）
2023年度博物館実習成果展「キリストに導かれて海を渡った少年たち—活版印刷と天正遣欧使節—」を開催しました。

2023年6月17日（土）～7月29日（土）
2023年度博物館実習成果展
「天使みっけ!～天使の種類とその表現～」を開催しました。

2023年8月1日（火）～10月19日（木）
2023年度企画展予告展示
「ジョージくん&ふっきよんと『NIPPON』を観察しよう!」を開催中です。

2023年7月24日（月）～12月中旬
館外サテライト展「アジアに渡ったキリスト教美術—フィリピンと日本—」を開催中です。

2023年8月5日（土）
せいなんワークショップ「テラコッタねんどで土器・はにわづくり」を開催しました。



展覧会紹介

予告

2023年度西南学院大学博物館企画展
西南学院大学博物館×福岡県立図書館共同企画展

シーボルト来日200周年記念 「シーボルトと近世の蘭学者たち」

会期/2023年10月23日(月)～12月18日(月)

*『NIPPON』、『日本植物誌』、『日本動物誌』は、作品保護の観点から、会期中に展示するページの入れ替えをおこないます。詳しい展示スケジュールは、公式ホームページをご確認ください。

会場/西南学院大学博物館1階 特別展示室

主催/西南学院大学博物館 共催/福岡県立図書館

協力/大分市歴史資料館 九州大学医学図書館 シーボルト記念館 武雄市図書館・歴史資料館

長崎大学附属図書館経済学部分館 宮崎克則研究室(西南学院大学国際文化学部国際文化学科) 早稲田大学図書館

江戸時代、出島を通じて日本へもたらされた西洋の学術を「蘭学」と称した。江戸幕府8代将軍・徳川吉宗が1720（享保5）年に洋書の輸入を緩和したことから、武家社会を中心に海外知識が導入され、「蘭学」を学ぶ者（蘭学者）も増えていった。

シーボルト(Philipp Franz Balthasar von Siebold, 1796-1866)はドイツ人の医者・博物学者で、オランダ商館医として1823(文政6)年に来日し、長崎へ滞在した。翌年に鳴滝(長崎市鳴滝町)で私塾「鳴滝塾」を開塾し、西洋医学や自然科学などを日本人へ講義した。塾生たちは、幕末から明治にかけて医者や本草学者(博物学者)として活躍した。

本展覧会は、シーボルト来日200周年を記念し、彼の日本での活動と、蘭学者たちに与えた影響を紹介する。

おもな展示資料

I 蘭学の隆盛

- ・『解体新書』(大分市歴史資料館蔵)
- ・『蘭学階梯』(西南学院大学図書館蔵)
- ・『芝蘭堂新元会図』(複製)(西南学院大学博物館蔵)

II シーボルトの来日と日本研究

- ・『NIPPON』(図版篇2冊、福岡県立図書館蔵)
- ・『日本植物誌』(福岡県立図書館蔵)
- ・『日本動物誌』哺乳類・鳥類(福岡県立図書館蔵)

III 日本人との交流

- ・『医療正始』(九州大学医学図書館蔵)



【資料画像】(左)『日本植物誌』より「アジサイ」、(右)『日本動物誌』哺乳類・鳥類より「ニホンオオカミ」

ジョージくん&ふっきよんと『NIPPON』を観察しよう!

会期/2023年8月1日(火)～10月19日(木)

会場/西南学院大学博物館1階 廊下

西南学院大学博物館マスコットキャラクターのジョージくん、福岡県立図書館マスコットキャラクターのふっきよんと一緒に、シーボルト『NIPPON』に描かれた200年前の日本を観察してみよう!

ワークシートにチャレンジしたみなさんには、プレゼント*を用意しているよ!

*プレゼントの対象は中学生以下のお子様のみ

